



Kids Media Station

事業報告書 2016

一般社団法人キッズ・メディア・ステーション





ごあいさつ

2016年をふりかえって | 災害、防災、そして、ご恩送り

東日本大震災から5年の歳月が流れ、当時の小学1年生は中学生になりました。これからの5年は、震災の記憶が鮮明な世代、中学生、高校生たちが積極的に伝えることが非常に重要になります。「石巻日日こども新聞」にも新しい世代が増えてきました。2016年11月22日の地震で、宮城県内にも、震災以来はじめての津波警報がだされましたが、震災の記憶はほとんどないと語る小学3年生の記者が「やはり、あの日のことを忘れてはいけないと思いました」と話していました。災害の経験から防災意識が芽生えています。

今年3月、私どもの活動を支えてくださる「被災していない僕たちが頑張る！」の小川正道代表から「恩送り」を教えてくださいました。「ご恩は『返す』だけでなく、他の人に『送る』こともできる」という考えです。「ネパールたまごプロジェクト」ではネパールの子どもたちにゆでたまごの殻を使ったアート作品を、熊本地震では御船町に義援金を、インドネシアのアチェには「おしるこカフェ」の「のれん」を送るなど、今年は、震災でご縁ができたみなさまに、心をこめて「ご恩を送る」活動もできました。

震災を思い出すのはつらい場合もありますが、その経験から誕生した「石巻日日こども新聞」は、出発点を忘れず、1000年先の世代に津波文化を継承するメディアとして、子どもたちの力で情報発信を続けていきます。これからも、地域内外の子どもたちが、大人とともに、災害に対して常に当事者意識を感じられるように、「災害」「防災」「ご恩送り」をテーマにしていきます。

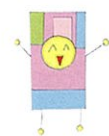
みなさまのますますのご理解とご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

一般社団法人キッズ・メディア・ステーション
代表理事 太田 倫子



子どもたちの「つくる・つたえる・つながる」力を育む

子どもたちの表現活動および情報発信を支援し、子どもたちのつくる力（表現力）・つたえる力（コミュニケーション力）・つながる力（行動力）を育むことを活動の目的としています。

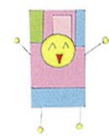


これまで制作に参加したこども記者

のべ490名



創刊号（2012年3月11日）より新聞制作に参加した子どもの数
内訳）未就学児1名、小学生321名、中学生129名、高校生38名、大学生1名

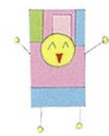


2016年に実施した
ワークショップ&取材

合計97回
参加者のべ564名



表現力および取材力を磨くためのワークショップ60回
取材37回、合計97回開催。参加者計564名
内訳）小学生440名、中学生106名、高校生14名、大学生3名、未就学児1名



これまでに発行した新聞

1~20号+号外2号
合計79万3000部



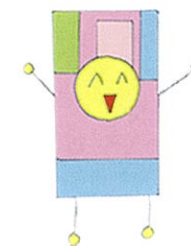
年4回の季刊発行を実施。第16号~第19号は各3万部



Kids Media Station ロゴマーク

子どもたちの「つくる力・つたえる力・つながる力」を表す3つの翼が、未来に大きくはばたいていく様子を表現しています。シンボルカラーの赤は、地球の生命の源である太陽を象徴しています。

ロゴ制作：小室理沙 | 宮城大学デザイン情報学科中田千彦研究室2012年卒



公式キャラクター
「しんちゃん」

制作 松林 拓希 初代こども記者
蛇田小学校6年生（2013年制作時）

事業報告

「石巻日日こども新聞」は、創刊から5年目を迎え、発行部数3万部、安定的な読者と新規および継続的な参加者を得て、コンテンツ、制作技術共に充実した年となりました。毎週土曜日開催のワークショップも定着し、市内遠隔地の小規模校、隣接する東松島市の小学校など、週次開催のワークショップ参加が難しい場所に住まう子どもたちに向けてワークショップのアウトリーチを行ったり、ロータリークラブのご協力により地域の外からの子どもたちと合同取材を行うなど、多くのみなさんの参加を得ることができました。

また、2016年1月「石巻日日こども新聞社」と名付けたワークショップスペースをオープン（石巻市中央2丁目）し、活動拠点とするだけでなく、「役割のある居場所づくり」を開始しました。この目的において、公益財団法人三菱財団から3年間の助成を受け、子どもたちのアイデアで地域の魅力を発信する「石巻日日こども商店」、テイラー・アンダーソン記念基金からの助成により、子どもたちがえらぶ本・つくる本で地域をつなぐ「石巻日日こどもライブラリー」がそれぞれスタートしました。子どもたちの成長を心身ともに応援するため、女川町の社会人サッカーチーム「コバルトレ女川」との協働による未就学児童へのサッカー教室アウトリーチ事業「コバルトレ・キッズ」については準備が整い、次年度より開始を目指します。

石巻日日こども新聞

前年度に続き、静岡県函南町（3月）、印刷博物館（東京都文京区、6月）、熊本県（10月）、ブラジル在住の記者によるブラジルでの取材など、石巻地域に限定されない取材活動を行いました。東日本大震災からの学びを求めて来石した岐阜県本巣地区の中学生16名との合同取材（8月）や、ワークショップにこども記者サポーターのみなさんが訪れるなど、読者とのコミュニケーションを深めることもできました。また、急速に進行するインターネット社会に備えて、6月から7回シリーズで、インターネットリテラシーを高めるためのワークショップを開催、子どもたちによるInstagramの投稿「インスタ部」にも着手しました。さらに、新聞制作・発行に至るまでの子どもたちの取り組みを、FacebookやTwitterでの発信に加え、「しんちゃん通信」として石巻日日新聞紙面に活動報告（毎週火曜日）、メールマガジン「石巻日日こども通信」として配信（毎週水曜日）を始めました。こども記者サポーター1万人達成を目指して、コミュニケーションの向上に取り組んでいます。



「被災していない僕たちが頑張る！」（3月、静岡県函南町）で取材



印刷博物館（東京都文京区）で取材（6月）



熊本県御船町を訪れ藤木町長に取材（10月）



岐阜県本巣・石巻南両ロータリークラブのご協力により、岐阜の中学生16名との合同取材（8月）



石巻日日こどもラジオ

4年目に入り、Vol.77～Vol.132まで55本をYoutubeに公開しました。2015年11月より石巻総合情報サイト「ぼんぴん」(http://bonpin.com/)に番組の一部が転載され、6月25日「石巻日日こどもラッパーズ」として西広夢さん（釜小学校3年生）が、震災後の東北における多様な表現を発信するアート・レベル「STARTohoku」から「エアコン Love」でデビューを果たし、「音声」で伝える取り組みを展開しました。



わたしの心に残る風景 ～語り伝えたい古里のこと～

地域ごまりの大先輩が子どもたちに「心に残る風景」を語るシリーズとして2015年5月より石巻日日新聞に月次掲載（第1土曜日）されています。

- これまでに取材させていただいたみなさん（年齢は取材時）
- 千葉 勇作さん（84）| レ스토랑たわらや主人
 - 阿部 和夫さん（76）| 石巻市芸術文化振興財団理事長
 - 菊地 紀子さん（71）| わたはコスモス園協会主宰
 - 佐藤 昭さん（82）、ハルミさん（79）| 元漁船員
 - 伏見 龍一郎さん（75）| フォトサロンあい店主
 - 中嶋 よしさん（85）| 国際プロチミスト石巻所屬
 - 龍山 幸一さん（87）| ルポライター
 - 小野 泰佑さん（86）| 住吉あたご会会長
 - 江刺 みゆきさん（74）| 宮城県漁協協会女性部連絡協議会副会長
 - 邊見 清二さん（68）| 奥州仙臺石巻湊石巻千石船の会会長
 - 矢口 清志さん（69）| ふるさと探求人
 - 宮川 公子さん（84）
 - 井上 晃雄さん（86）| サロヤ音楽教室社長
 - 松川 榮光さん（80）| 石巻さくら会会長
 - 岡田 寛さん（73）| 作家・エッセイスト
 - 木村 英夫さん（84）| 有限会社社稟局代表取締役
 - 尾形 たき子さん（73）
 - 菅原 敬さん（85）
 - 太田 実さん（74）| 道の駅・上品の郷駅長



若宮丸探検隊・ 世界一周プロジェクト

自主制作の紙芝居「初！せかいっしゅうした日本人～若宮丸に乗っていた人たち～」を上演する取り組みです。杉村博美術館（宮城県塩竈市、2015年12月19日）、本間家土蔵（同石巻市、1月16日）、白梅会仙台支部昼食会（好文館高校同窓生の会、同仙台市、10月23日）で上演。国際交流基金のご協力により、海外の日本語学習者にインターネット上演する取り組み「世界一周プロジェクト」が4月にスタートし、ヤクーツク、イルクーツク（4月）、サンクトペテルブルグ、モスクワ（5月、以上、ロシア）、ラズビレマス（スペイン）、フロリアノポリス（以上10月、ブラジル）のみなさんと交流を図りました。



石巻日日こども商店 助成：公益財団法人三菱財団

子どもたちのアイデアで地域の魅力を発信する取り組みです。石巻川開き祭り（2016年7月31日～8月1日）には「川開きこども商店」を開店しだしの販売を行いました。収益は熊本地震の被害を受けた御船町に義援金として、一般社団法人まちとアート研究所との協同で2004年に大津波に襲われたインドネシアのアチに「のれん」として贈呈しました。1年目はリサーチ、2年目は商品開発、3年目は販売と流通まで、3年計画で実行します。



石巻日日こどもライブラリー 助成：テイラー・アンダーソン基金

東日本大震災の時には世界中から本が届きました。新たな本との出会いに励まされた経験がヒントとなり、「子どもたちが選ぶ本・作る本」をコンセプトにマイクロライブラリーづくりを開始しました。収集される本1冊1冊には、持ち主からのコメントと、読者のコメントが寄せられるようになっており、本が介在する心のコミュニケーションを図ることができます。地域の世代間交流が生まれる場所を目指します。



ツタエル | 東日本大震災を 伝える高校生千葉拓人写真展

2013年石巻から始まった本展は国内13箇所を巡回しました。

- これまでの展示
- 石巻ニューゼ（宮城県石巻市）
 - 遠野まごころネット東京事務所（東京都千代田区）
 - 燦きやろー（埼玉県川口市）
 - レストランマテリア（神奈川県横浜須賀野市）
 - シェアリーカフェ（神奈川県横浜須賀野市）
 - 交流館 Au（秋田県秋田市）
 - 弁護士会館（東京都千代田区）
 - 大垣書店（京都市）
 - 多治見市学習館（岐阜県多治見市）
 - 大阪弁護士会館（大阪市）
 - 燦きやろー（埼玉県川口市）
 - 市民活動交流センター・ミナクル（北海道千歳市）
 - 「ガレキラジオ」上映会にて展示（千歳市民文化センター 中ホール）
 - 2016年9月15日～21日 仙台緑日（仙台市）



ネパールたまごプロジェクト

2015年に大地震を経験したネパールの子供たちへでたまごを届ける取り組み「ネパールたまごプロジェクト」（主催：ジギヤン・クマル・タバさん、ネパール政府公式通訳者）に参加する形で、たまごの殻をつかったモザイクアートを制作、2015年12月、ネパールの学校に届けました。2016年2月6日、ネパールから返礼の作品を受領し、タバさんによるネパールの現状報告会が行われました。



思っていることを言葉にできる楽しさ 木村ひな子 (石巻市立桜坂高校2年生) 記者歴6年



「子ども記者になると、人生変わります！
思っていることを言葉にすることが苦手だったのに、苦手意識がなくなりました。」



主な記事：62人のありがとう（創刊号）、
ど根性ひまわり4世開花！！（11号）、
広島土砂災害のつめあと（16号）、女川
大好き！（17号）

創刊号の発行を記念して開催されたシンポジウム（2012年3月、当時小学6年生）では、頭の中が真っ白になって何も話せませんでした。テレビの取材を受けて答えられなかった時には、恥ずかしくて、「もう取材は受けないようにしよう」と思いました。でも、回数を重ねるうちに緊張がなくなり、自分の考えを言葉にできるようになっていきました。記者活動をして「人は変わる」とわかりました。広島土砂災害の取材で出会った信長由枝さんに直接お話を聞いたことは忘れられません。土砂は上からすごい勢いで飛んできたけれど、津波のように戻っては来ないから、自宅の車庫に避難し、過ぎ去るまでひたすら耐えたそうです。どんなに怖かったことでしょうか。信長さんが避難した小学校と一緒に歩いて行った時、土砂でつぶれた車を見て衝撃でした。思わず写真を撮りました。現地に行かないとわからないことがあると感じた瞬間です。

人と話すのが大好きに 八重樫 連 (石巻市立石巻中学校3年生) 記者歴5年

「記者活動を始めてから、文章を書くのが早くなり、人に質問するのが
楽しくなりました。新しいことに挑戦するのは大切です！」



主な記事と活動：ぼくらの町の電器屋さん（4号）、曲げて、初めて作品に（8号）ラズベリーパイ（12号）、1面広告制作チーム「イチメン隊」リーダー、2016年9月NPO法人風の子応援プロジェクトのロゴマーク制作



震災の後、ボランティアで石巻に来た大人たちと話す機会がありました。それが楽しかったので、いろいろな人に話を聞く記者活動は面白そうだと思って参加しました。そして、思った通りに楽しかったです。一番最初に取材したのは親戚のおじさんで、いつも近くにいる人なのに、改めて話を聞いてみたら、新鮮なところがあり、知らなかったこともありました。日常会話と取材は違うコミュニケーションができました。震災前はどちらかというと人見知りでしたが、いつのまにか人と話すのが好きになっていました。

アーティストの橋 寛憲さんに取材したことが忘れられません。ものづくり、アートを仕事にしている人に出会って、自分に重なることがたくさんありとても参考になりました。将来はものづくりにかかわる仕事をしたいと思っています。



NPO法人風の子応援プロジェクト
ロゴマーク

■ 2016年度の活動費について

受取助成金 4,889,666円
 子どもサポート基金（公益財団法人東日本大震災復興支援財団 2015年4月～2016年3月）
 平成28年度みやぎ地域復興支援助成金（宮城県、2016年6月～2017年3月）
 平成28年度社会福祉事業・研究助成金（公益財団法人三菱財団、「子ども商店」に対する助成、2016年10月～2019年9月）
 テイラーアンダーソンメモリアル基金（「子どもライブラリー」に対する助成、2016年9月～2017年8月）
 受取寄付金 9,172,260円
 法人およびグループによる寄付 72団体
 個人による寄付 121

■ 収支報告

取入	受取寄付金	9,172,260
	受取助成金	4,889,666
	雑収入	139,259
	経常収益合計	14,201,185
支出	事業費	
	役員報酬	2,880,000
	給料手当	2,011,700
	福利厚生費	2,063
	会議費	108,358
	研修費	90,490
	車両費	333,264
	旅費交通費	1,003,308
	通信運搬費	1,103,421
	消耗品費	384,460
	修繕費	163,469
	印刷製本費	1,259,970
	光熱水料費	101,140
	賃借料	794,288
	保険料	474,780
	諸謝金	100,000
	租税公課	61,655
	支払寄付金	39,838
	委託費	1,747,040
	法定福利費	824,164
	交際費	57,504
	広告宣伝費	22,000
	雑費	619,571
	管理費	
	役員報酬	720,000
	賃借料	480,000
	経常費用合計	15,382,483
	当期一般正味財産	△1,181,298

I 資産の部		II 負債の部	
1 流動資産		1 流動負債	
現金預金	5,825,145	未払金	435,070
未払金	1,210,000	前受金	13,600
前払金	178,524	預り金	115,791
流動資産合計	7,213,669	仮受金	7,536
		流動負債合計	571,997
		III 正味財産の部	
		正味財産	6,641,672
		(うち当期正味財産増減額)	△ 1,181,298
		正味財産合計	6,641,672
資産の部合計	7,213,669	負債及び正味財産合計	7,213,669

■ これまでに受けた助成金

トヨタ財団（2013年）
 こども☆はぐみファンド | セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、地域創造基金さなぶり（2013年～2014年）
 子どもサポート基金 | 東日本大震災復興支援財団（2013年～）
 あづめっちゃ | 地域創造基金さなぶり（2013年）
 みやぎ地域復興支援助成金 | 宮城県（2013年～2014年、2016年～）
 三菱財団（2016年～）
 テイラーアンダーソン記念基金（2016年～）



こども記者サポーター・賛助会員を募集しています

石巻日日こども新聞を読んで応援して下さる「こども記者サポーター」、活動を支えて下さる賛助会員を随時募集しています。

◆こども記者サポーター

サポーター	一口 ¥10,000/年	各号 100 部送付 (年 4 回)
サポーターミニ	一口 ¥5,000/年	各号 2 部送付 (年 4 回)
サポーターミニミニ	一口 ¥3,000/年	各号 1 部送付 (年 4 回)

※発行日は、3月11日、6月11日、9月11日、12月11日です。

◆賛助会員 年会費 一口 50,000 円

お振込先

- ◆ジャパンネット銀行 ビジネス営業部 普通 1024799
- ◆三井住友銀行 仙台支店 普通 1843543
- ◆七十七銀行 石巻支店 普通 5000716
- ◆ゆうちょ銀行 二二九支店 当座 0120270

口座名義 一般社団法人キッズ・メディア・ステーション
シャ.キッズ.メディア.ステーション

クレジットカードでのお申込み

ネットショップ「Kodomokisha」からお申し込みください。
<http://kodomokisha.shop-pro.jp/>



団体概要

一般社団法人キッズ・メディア・ステーション

980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉 5-3-47-202

TEL&FAX 022-721-3143

MAIL info@kodomokisha.net

設立 2011年12月1日

代表理事 太田倫子

理事 熊谷清治、近江弘一、門脇篤